Infectious Diseases Weekly Report
iDWR HIROSHIMA City
2013年第38週（9月16日～9月22日）

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

■コメント

1．腸管出血性大腸菌感染症

1件（O26）の報告があり、今年の累計は17件となりました。

腸管出血性大腸菌感染症は、例年、10月ごろまでは多発する傾向にあります。また、子どもと高齢者は重症化しやすいので、特に注意が必要です。

予防のため、食品は十分に加熱し、手洗いの励行を心がけましょう。

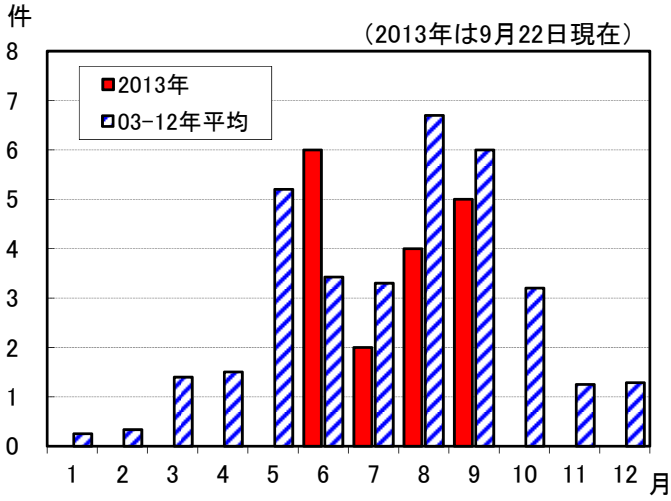
2．ヘルパンギーナ

定点当たり0.74人と、3週続けて増加しています。例年、この時期はピークを過ぎ減少傾向となりますが、今年はまだ増加傾向が見られることから、しばらくは注意が必要です。

3．水痘

定点当たり1.13人と、急増しています。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数



■定点把握感染症報告状況（週報対象）

疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均（注）	発生記号	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均（注）	発生記号
インフルエンザ	－	－	0.64		ヘルパンギーナ	17	0.74	0.40	⇗
咽頭結膜熱	15	0.65	0.15	⇗	流行性耳下腺炎	5	0.22	0.58	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	0.39	0.53	↓	RSウイルス感染症	16	0.70	0.38	↘
感染性胃腸炎	69	3.00	2.68	⇗	急性出血性結膜炎	－	－	0.05	
水痘	26	1.13	0.52	↑	流行性角結膜炎	14	1.75	0.63	⇗
手足口病	27	1.17	0.67	⇗	細菌性髄膜炎	－	－	－	
伝染性紅斑	1	0.04	0.09		無菌性髄膜炎	2	0.29	0.14	
突発性発しん	5	0.22	0.52		マイコプラズマ肺炎	－	－	0.32	
百日咳	－	－	0.12		クラミジア肺炎（オウム病を除く）	－	－	－	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1：2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1：1.5～2の増減
微増減	⇗	⇘	前週と比較しておおむね1：1.1～1.5の増減
横ばい	⇨		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数（小児科定点を含む）	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

（注）過去5年間の同時期平均（定点当たり）

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	141	女性（40歳代）・1人、男性（70歳代）・2人、女性（70歳代）・1人、男性（80歳代）・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	17	男性（10歳代）・O26

■定点把握感染症報告状況（週報対象）の推移

			インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
報告数	広島市	第34週	－	26	15	84	15	68	－	13	1	10	3	17	1	9	－	5	－	－
		第35週	－	30	24	86	10	48	2	12	1	6	2	21	－	11	－	5	－	－
		第36週	－	21	20	75	28	28	－	12	1	14	3	25	－	5	－	3	－	－
		第37週	－	21	22	99	10	40	－	8	1	16	5	28	－	16	－	2	1	－
		第38週	－	15	9	69	26	27	1	5	－	17	5	16	－	14	－	2	－	－
定点当たり	広島市	第34週	－	1.13	0.65	3.65	0.65	2.96	－	0.57	0.04	0.43	0.13	0.74	0.13	1.13	－	0.71	－	－
		第35週	－	1.25	1.00	3.58	0.42	2.00	0.08	0.50	0.04	0.25	0.08	0.88	－	1.38	－	0.71	－	－
		第36週	－	0.88	0.83	3.13	1.17	1.17	－	0.50	0.04	0.58	0.13	1.04	－	0.63	－	0.43	－	－
		第37週	－	0.88	0.92	4.13	0.42	1.67	－	0.33	0.04	0.67	0.21	1.17	－	2.00	－	0.29	0.14	－
		第38週	－	0.65	0.39	3.00	1.13	1.17	0.04	0.22	－	0.74	0.22	0.70	－	1.75	－	0.29	－	－
	全国	第36週	0.01	0.53	0.78	3.06	0.49	3.88	0.04	0.63	0.01	1.15	0.21	0.81	0.01	0.76	0.01	0.08	0.32	0.03
		第37週	0.02	0.53	0.86	3.05	0.46	3.96	0.05	0.61	0.01	1.08	0.23	1.11	0.01	0.81	0.01	0.07	0.41	0.01

■新たに判明した病原体検出状況

（検査：広島市衛生研究所）

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(38.4) 発疹 丘疹 気管支炎	0	男	2013/07/15	咽頭拭い液	ｴｺｰｳｲﾙｽ6型
					糞便	ｴﾝﾃﾛｳｲﾙｽ71型
					咽頭拭い液　糞便	ﾗｲﾉｳｲﾙｽ
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0) 肺炎	19	男	2013/08/13	咽頭拭い液	単純ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ1型

＊感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】野山のダニに注意しましょう
－つつが虫病／日本紅斑熱／重症熱性血小板減少症候群（SFTS）－

つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシ（ダニの一種）の幼虫に吸着されることで感染する病気で、広島市では毎年秋から初冬にかけて多くなります（グラフ参照）。

日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニ類に吸着されることで感染する病気で、患者の発生時期はほとんどが4月～10月です。

ともに潜伏期間（つつが虫病：5～14日、日本紅斑熱：2～8日）を経た後、頭痛や倦怠感を伴って発症します。症状の主な特徴は、発熱、ダニの刺し口、発しんの3つです。

また、SFTSは、最近になってその存在が知られるようになったダニ媒介性の感染症です。SFTSウイルスを保有するマダニにより感染し、多くの場合、春から秋頃にかけて患者が発生しています。

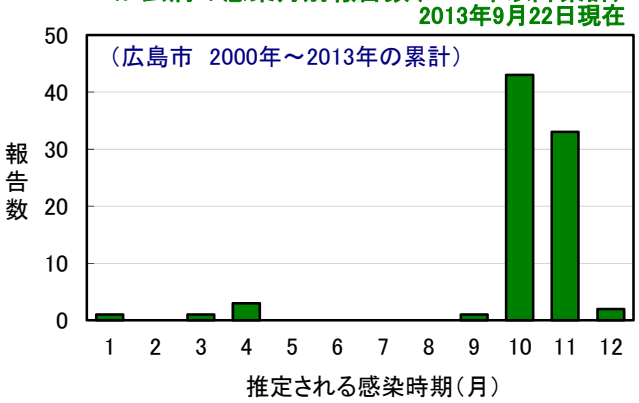
これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、

・野山に入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぐ

・屋外活動後はすぐに入浴し、ダニが付着していないかチェックする

などの対策をとることが重要です。

つつが虫病の感染月別報告数（2000年以降累計）
2013年9月22日現在



（注）上のグラフは、2000年から2013年のつつが虫病の届出105件のうち、感染時期の記載のあった届出84件について感染月別に集計したものです。ほとんどが10月から11月の間に感染しており、この時期は特に注意する必要があります。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
URL http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html

【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所　〒733-8650　広島市西区商工センター四丁目１番２号
TEL(082)277-6575　FAX(082)277-5666　E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp